

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 10-286113

(43) Date of publication of application : 27.10.1998

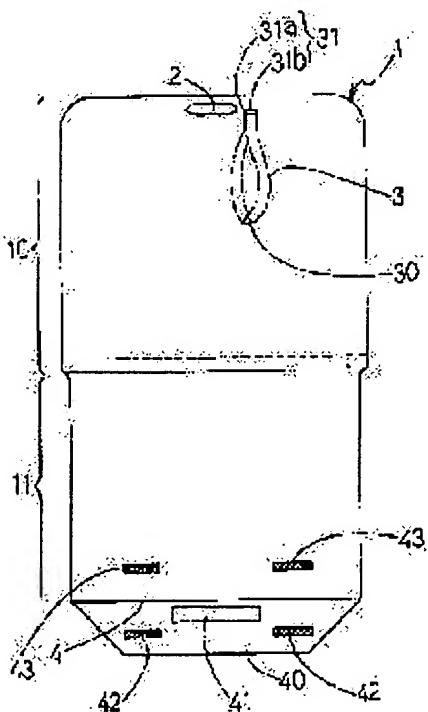
(51) Int. CI. A45C 9/00

B65D 33/12

(21) Application number : 09-114272 (71) Applicant : FR YA HONBU:KK

(22) Date of filing : 15.04.1997 (72) Inventor : NAKATSUKA KIYOSHI
MATSUSHIMA JIRO

(54) CLOTHING COVER



(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a cover for containing clothing hung from a hanger without making volume large and easy for earring.

SOLUTION: A clothing cover is a bag-shaped body provided with an inserting port 2 in an upper part, where the hook of the hanger can be put through, is the one for containing clothing such as a suit, etc., hung from the hanger inside so as to expose the hook of the hanger from the inserting port 2 to an outside and is provided with a hand carrying grasping member 3 in the neighborhood of the cover inserting port 2. The grasping member 3 is provided with a restraining part 30 where the hook of the hanger to be exposed from the inserting port 2 to the outside of the cover is

neighborhood of the cover inserting port 2. The grasping member 3 is provided with a restraining part 30 where the hook of the hanger to be exposed from the inserting port 2 to the outside of the cover is

hooked. Therefore, the hook of the hanger hanging clothing in the cover is hooked from the restraining part 30 of the grasping member 3 so that there is no necessity that the hook is directly grasped by a hand at the time of carrying the cover by the hand and also a position except the restraining part 30 of the grasping member 3 is grasped so as to carry the cover by the hand.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-286113

(43)公開日 平成10年(1998)10月27日

(51)Int.Cl.⁶
A 45 C 9/00
B 65 D 33/12

識別記号

P I
A 45 C 9/00
B 65 D 33/12

F

審査請求 未請求 詞求項の数3 FD (全9頁)

(21)出願番号 特願平9-114272

(22)出願日 平成9年(1997)4月15日

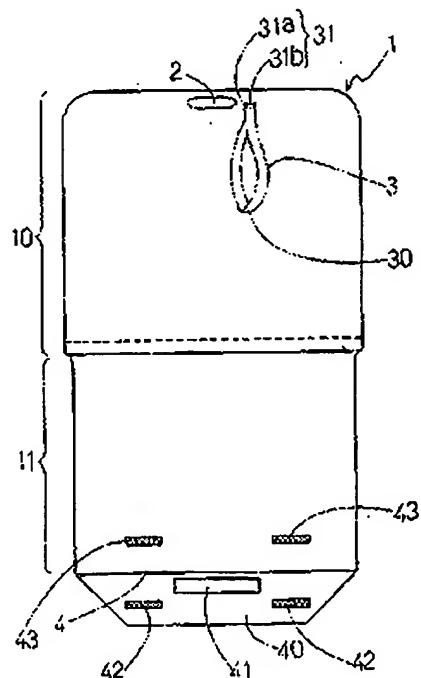
(71)出願人 397010273
株式会社フランス屋本部
大阪府岸和田市藤井町2丁目16番31号
(72)発明者 中原 潤
大阪府岸和田市藤井町2丁目16番31号 株
式会社フランス屋本部内
(72)発明者 松島 二郎
大阪府大阪市中央区谷町1丁目5番6号
マック開発株式会社内
(74)代理人 弁理士 鶴島 武信

(54)【発明の名称】 衣服カバー

(57)【要約】

【課題】 ハンガに吊るした衣服を収容するカバーについて、嵩高にならず、持ち運びの行きやすいものを提供する。

【解決手段】 本発明に係る衣服カバーは、上部にハンガのフックを通すことが可能な押通口2を備えた袋状体であり、ハンガに吊るされた背広等の衣服を内部に収容し、押通口2よりハンガのフックを外部へ露出することが可能なものであり、カバーの上記押通口2の付近に、手提げ用の把持部材3が設けられている。把持部材3は、押通口2よりカバー外部へ露出するハンガのフックを、引っ掛けることが可能な係止部30を備える。従って、把持部材3の係止部30にカバーの衣服が吊るされたハンガーのフックを引っ掛けることができるため、カバーを手に提げる際に際して、手で直接このフックを掴む必要がなく、把持部材3の係止部30以外の位置を掴むことによって、カバーを手に提げることが可能となつた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】上部にハンガのフックを通すことが可能な押通口(2)を備えた袋状体であり、ハンガに吊るされた背広等の衣服を内部に収容し、押通口(2)よりハンガのフックを外部へ露出することが可能な衣服カバーにおいて。

カバーの上記押通口(2)の付近に、手提げ用の把持部材(3)が設けられ。

把持部材(3)は、押通口(2)よりカバー外部へ露出するハンガのフックを、引っ掛けることが可能な係止部(30)を備えるものであることを特徴とする衣服カバー。

【請求項2】上記把持部材(3)は、帯状或いは紐状に形成され、その基端がカバーに固定され、先端側が上記係止部(30)を備えるものであることを特徴とする請求項1記載の衣服カバー。

【請求項3】上記把持部材(3)は、帯状或いは紐状に形成され、その両端が、上記押通口(2)を挟んで互いに反対に位置するように、カバーに固定されたものであることを特徴とする請求項1記載の衣服カバー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本願発明は、衣服カバーに関し、詳しくは、ハンガーに吊るした背広やコートなどの衣服を手に提げて持ち運ぶことが可能な衣服カバーに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、図9(A)へ示すように、ハンガりに吊るされた背広やコート或いはシャツやブラウスなどの衣服には、持ち運びに際して、合成樹脂製の軟質部材で形成された袋状のカバー1が用いられた。

【0003】これは、上部にハンガのフック1を通すことが可能な押通口2を備えるものであり、ここから、ハンガのフック1をカバー外部へ露出させることができる。従って、カバー1に収容した状態で、衣服を、ハンガスタンドやハンガラックへ掛け置くことができる。特に、手に提げて持ち運ぶ際には、露出しているハンガのフック1を掴んだ。上記の通り、カバーは、ハンガのフック1をそのまま把手として利用することにより、フック1を嵩張らせず、衣服の収容が行えるものであった。

【0004】しかし、複数のハンガり…りに吊るした衣服を運ぶ際には、図9(B)へ示すように、フック1…1が重なることにて、厚みを増す。従って、複数のハンガり…りに掛けられた複数の衣服…cを一つのカバー1に纏めて収容するものとしても、重ねられた複数のフック1…1を掴む必要があり、持ち運びが行い難いものとなっていた。当然複数のハンガり…りに掛けられた衣服の重複は大きいものであり、上記の持ち難さは耐えがたいものであった。又、ハンガりが一つの場合も上記のように複数の場合も、フック1を掴んで持ち運ぶ際、鏡

利なフック1の先端が手や指に食い込み、持ち難く、最悪の場合は手を傷つけることもあった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】そこで本願発明に係る衣服カバーは、ハンガに吊るした衣服を収容する際、嵩張らせずコンパクトに収容が可能であり、しかも、このような衣服を持ち運ぶ際に、直接ハンガのフックを掴む必要がなく、手に提げ易いものを提供して、上記課題の解決を図るものである。

10 【0006】

【課題を解決するための手段】本願の第1の発明に係る衣服カバーは、上部にハンガのフックを通すことが可能な押通口2を備えた袋状体であり、ハンガに吊るされた背広等の衣服を内部に収容し、押通口2よりハンガのフックを外部へ露出することが可能なものについて下記の構成を採るものである。即ち、カバーには、上記押通口2の付近に、手提げ用の把持部材3が設けられている。把持部材3は、押通口2よりカバー外部へ露出するハンガのフックを、引っ掛けすることが可能な係止部30を備える。

20 尚、「押通口2の付近」とは、ハンガのフックが把持部材3の係止部30に届く位置をいう。

【0007】このように把持部材3の係止部30にカバーの衣服が吊るされたハンガのフックを引っ掛けることができるために、カバーを手に提げるに際して、手で直接このフックを掴む必要がなく、把持部材3の係止部30以外の位置を掴むことによって、カバーを手に提げることが可能となった。

【0008】本願の第2の発明に係る衣服カバーは、上記本願第1の発明に係る衣服カバーにあって、上記把持部材3が、帯状或いは紐状に形成され、その基端がカバーに固定され、先端側が上記係止部30を備える。

【0009】従って、上記第1の発明に係る衣服カバーの把持部材3について、特に、帯状或いは紐状にして、持ち運び、手を傷めない。又、未使用時にも嵩張らない。例えば、把持部材3を使わないときは、垂れ下げるごとに、簡単にカバー内に収容することができる。特に、ハンガを引っ掛けた際、把持部材3の先端側をカバー内へ垂れ下げるごとに、係止部30の位置をカバーと相対的に低くすることができ、フックを係止部30へ引っ掛けの作業が行い易い。

【0010】本願の第3の発明に係る衣服カバーは、上記本願第1の発明に係る衣服カバーにあって、上記把持部材3が、帯状或いは紐状に形成され、その両端が、上記押通口2を挟んで互いに反対に位置するように、カバーに固定されている。

【0011】このような構成を採ることにより、上記第1の発明に係る衣服カバーにあって、帯状或いは紐状の把持部材3の両端が、互いに異なる位置にて、夫々カバーに固定されているため、手に提げた際、より安定している。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づき本願発明の実施の形態を説明する。図1乃至図4に本願発明の一実施の形態を示す。図1は、一実施の形態の略正面図、図2(A)はその使用状態を示す略正面図、図2(B)はその使用状態を示す一部切欠略拡大正面図、図3(A)は図1の略側面図、図3(B)は折り畳んだ状態を示す略側面図、図3(C)は図3(B)の背面図、図4は衣服の出し入れの状態を示す全体略正面図である。

【0013】図1へ示すように、この衣服カバー1は、上部にハンガのフックを通すことが可能な掉通口2を備え、下方に開口部4を備えた袋状体である。衣服カバー1は、ハンガに掛けた背広やコート、シャツなどを内部に収容することが可能であり、ナイロン、アクリル、ポリエステル、ポリエチレン、ビニル、その他の合成樹脂、或いは合成皮革などの、軟質性の素材にて形成されている。

【0014】この衣服カバー1について、更に詳しく述べると、そのほぼ上半分を形成する袋状の基体部10と、この基体部10より下方に延設されカバーのほぼ下半分を形成する筒状の延設部11とにて構成されている。上記掉通口2は、この基体部10上端のほぼ中央に設けられている。そして、延設部11の下端が上記開口部4を形成しているのである。

【0015】図1に示す通り、基体部10の内部(裏側)に、把持部材3が設けられている。この把持部材3は、軟質部材にて形成された袋状体である。把持部材3の両端31a、31bは、上記基体部10内のほぼ同じ位置に縫い込まれている。即ち、把持部材3は、上記両端31a、31bを基端部31として、先端側が環状に形成されている。把持部材3は、先端側を掉通口2から外部へ出すことが可能な(カバー内部の)掉通口2近傍の位置に、上記の通り、その基端31が縫い込まれているのである。上記の図1及び次に示す図2(A)において、把持部材3は衣服カバーを透視した状態で描かれている。

【0016】図2(A)へ示すように、衣服カバー1の下方の開口部4より、ハンガhに吊るした衣服cをカバーの内部へ収容することが可能である。このとき、この図2(A)へ示すように、上記の掉通口2より、ハンガhのフックfを外部へ露出させる。そして、このフックfと共に、把持部材3の先端側も掉通口2より外部へ露出させる。そして、環状の把持部材3を二つ折りにして、その先端部をフックfの先端に引っ掛ける。即ち、二つ折りにされ二重の袋状とされた把持部材3の最先端部が、ハンガhのフックfに対する係止部30を形成している。

【0017】このように、ハンガhのフックfに引っ掛けられた把持部材3を組むことによって、衣服カバー1に収容された衣服を手に下げることができる。複数の衣

服を被めて衣服カバー1内に収容し手で提げる場合も、図2(B)へ示すように、複数のハンガh…hのフックf…fを纏めて把持部材3の係止部30に引っ掛け、把持部材3を組めばよい。把持部材3は、図示の通り、組むのに適した長さを持つものである。又、上記のようにハンガhのフックfに届く位置に、その基端部31が縫い込まれているのである。

【0018】図1及び図2(A)へ示すように、延設部11の開口部4の周縁に、蓋片40が延設されている。

19 この蓋片40は、中央に、普通部41が形成されており、先端に起毛テープ42、42が設けられている。この蓋片40を、図2(A)へ示すように折り返すことによって、開口部4を封じることができる。蓋片40を折り返した際、延設部11の起毛テープ42、42が当接する位置に起毛テープ43、43を設けておけば、図3(A)へ示すように、これらの起毛テープ42、43同士の固着によって、確実に開口部4を封じができる。

【0019】このように図3(A)へ示す状態で、持ち運ぶことも可能である。一方、よりコンパクトにして可搬性をよくするため、上方X側に延設部11を折り起こし、衣服カバー1全体を二つ折りにしてもよい(図3(B))。これには、先ず起毛テープ43、43に固定されていた蓋片40側の起毛テープ42、42を外す。そして、蓋片40の貢通部41に掉通口3より突出しているハンガhのフックfを通す(図3(B)(C))。このとき、衣服カバー1の基体部10の背面へ、蓋片40側の起毛テープ42、42と対応する起毛テープ44、44と蓋片40の起毛テープ42、42とを固着する。上述の通り、この衣服カバー1は、二つ折りにして持ち運ぶことができ、衣服収容後の可搬性に優れる。尚、上記起毛テープ42、42、43、43、44、44の代わりに、ホックを用いて実施することも可能である。

【0020】図4へ示すように、衣服cの出し入れに際して、把持部材3を掉通口2から衣服カバー1内部に戻し、下方に垂らすことによって、その係止部30を衣服カバー1に対して下方Yへ移動させ、下方の開口部4に近づけることができる。このため、この開口部4から、

40 ハンガhへの衣服cを掛ける作業、ハンガhを把持部材3へ引っ掛ける作業、或いは把持部材3に掛けられているハンガhから衣服cを取り外す作業、若しくは、把持部材3から外しハンガhごと衣服cを取り出す作業が、極めて円滑に行える。このように、把持部材3を袋状体や紐状体として形成することにより、衣服カバー1内部に垂らすことが容易に行え、係止部30を簡単な低い位置にすらすことができる。従って、上記の通り、開口部4から衣服cの出し入れが容易に行え、便利である。

【0021】次に、把持部材3の構成について、上記と異なる実施の形態について説明する。先ず図5(A)

(B) へ示す実施の形態は、帯状の把持部材3の先端に、金属或いはプラスチック、木、その他の硬質の素材にて形成された環状体を設けて、これを係止部30としたものである。図5 (B) へ示すように、この環状体である把持部材3へ、ハンガリのフックfを引っ掛けで使用する。このように、硬質の素材によって、係止部30を形成することによって、耐久性が増し、衣服カバー1は長期の使用にも耐える。

【0022】次に、図5 (C) (D) に示す実施の形態について説明する。この把持部材3は、図1乃至図4に示す実施の形態と同様、帯状或いは紐状に形成されたものであるが、その両端31a, 31bが、掉道口2を挟んで、互いに反対に位置するように、衣服カバー1内部に縫い付けられている。このように、異なる2か所にて固定されることにより、把持部材3は、組んだ際の安定感が極めてよい。又、把持部材3をこのように固定しても、掉道口2を横断するものであるため、図5 (D) に示すように、簡単に中央部分を掉道口2より外部に引き出し、ハンガリのフックfを引っ掛けで使用することができる。この場合、引き出された把持部材3の中央部分が、基端となる端31a, 31bに対する先端部を形成する。そして、図示の通り、この先端部が係止部30として、ハンガリのフックfを受けるのである。

【0023】図1乃至図4に示す実施の形態、図5 (A) (B) に示す実施の形態、及び、図5 (C) (D) に示す実施の形態の何れにおいても、把持部材3は、衣服カバー1の内部(裏面側)に基端31が固定されるものを示した。この他、上記各実施の形態の、把持部材3を外部(カバー表面側)に設けて実施することも可能である。

【0024】例えば、図6 (A) に示すように、図1乃至図4に示す実施の形態と同様の把持部材3を、衣服カバー1(基体部10)の上部外側(表面側)に縫い付けて実施することも可能である。この場合図6 (B) に示すように、把持部材3の先端に、穴30aを設けその周囲に鈎目などの金属の信頼部材30bを設けて、係止部30として実施することも可能である。このように実施すれば、耐久性の面で効果的である。

【0025】図1乃至図4に示す実施の形態や図6に示す実施の形態では、把持部材3は、帯状或いは紐状のものを環状にして、その両端31a, 31bを衣服カバー1の同じ位置に縫い付けるものとしたが、このように環状にすることなく、図6 (C) へ示すように、一本の帯状体或いは紐状体の一端のみを縫い付け、他端を自由端(どこにも固着されない端)として、把持部材3を形成することも可能である。この場合、保持部30の構成を上記図6 (B) に示すものと同様にすればよい。

【0026】又図示はしないが、図5 (A) (B) 及び図5 (C) (D) の各実施の形態に示す把持部材3と同様のものを、衣服カバー1の表面側に基端を縫い付けて

実施することも可能である。又図5 (C) (D) へ示す実施の形態の把持部材3について、紐や帯状にて形成されたものの代わりに、プラスチックなどの硬質の部材でできた把手を用いて実施することも可能である(図示しない)。この場合、衣服カバー1表面側において、把持部材3を、掉道口2を跨ぐように固定して実施すればよい。

【0027】更に、既述の図5 (C) (D) に示す実施の形態の把持部材3は、図示したものと異なり、複数の部材にて形成されたものであっても実施可能である。以下、このような実施の形態について、図7 (A) ~ (C) を用いて、説明する。この把持部材3は、図7 (A) へ示す通り、衣服カバー1の内部(裏面)において、掉道口2を挟んで互いに反対側に設けられた2つの帯状体3a, 3bと、別体に形成された帯状の係止部30にて構成される。

【0028】帯状体3a, 3bは、夫々、図1乃至図4に示した実施の形態の把持部材3と同様、環状にされ、両端が衣服カバー1の内部に固定されている。環状にされた両帯状体3a, 3bの先端には、フック状に形成された金属製の鉤3aa, 3baが設けられている。そして、帯状体3a, 3bは、夫々その基部寄りの位置に、鉤係止用孔3ab, 3bbを備え、先端(鉤3aa, 3ba)寄りの位置に、横鉤係止用孔3ac, 3bcを備える(鉤係止用孔3ab, 3bbの夫々及び横鉤係止用孔3ac, 3bcの夫々は、図7 (A) において、各2つづつ図面に、表されているが、環状にされた帯状体3a, 3bは、そのまま疊まれ夫々二つ折りの状態となるので、各孔は同じ記号のもの同士が重なり合い夫々1つの孔を形成する)。

【0029】帯状の係止部30は、図7 (B) へ示すように、その両端にフック状に形成された金属製の横鉤30c, 30cを備える。一方、この図7 (B) へ示すように、上記両帯状体3a, 3bを掉道口2より外部へ引き出す。そしてこの帯状体3a, 3b同士を、重ね台せ、夫々の鉤3aa, 3baを、相手側の鉤係止用孔3bb, 3abに係止する。このようにして、両帯状体3a, 3bを一体とし、手提げ時に掴む部分を形成する。そして、係止部30の横鉤30c, 30cを横鉤係止用孔3ac, 3bcの夫々に係止する。これにて、図3 (C) へ示すように、係止部30が両帯状体3a, 3b間に掛け渡され、ハンガリのフックfを引っ掛けができるのである。

【0030】このように2つの帯状体3a, 3bと、別体に形成された係止部30とにて把持部材3を構成することにより、強度面で優れ、又専用の係止部30を別途に形成することによって、より手に捉え易くなる。又使用しないときは、係止部30を外し、2つの帯状体3a, 3bを分離すれば、嵩張らない。

【0031】尚、上記図5乃至図7へ示す各実施の形態

は、把持部材3以外の構成については、図1乃至図4へ示す実施の形態と同様である。

【0032】図1乃至図4に示す実施の形態において、把持部材3は、帯状体或いは紐状体を環状にするために、その両端31a、31bが、基体部10内の同じ位置に縫い込まれるものと示した。しかし、このような実施の限定するものではなく、両端31a、31bが多少離れた位置に固定され、U字状になったとしても、実施可能である（図示しない）。この場合に必ずしも図5（C）（D）に示す実施の形態のような位置関係を持通口2に対して採る必要はない。又、図5（A）（B）及び図6（A）（B）（C）の各実施の形態においても、上記のようにU字状となるように両端31a、31bを離して固定し、把持部材3を形成するものであっても実施可能であり、更に、図7に示す実施の形態の帯状体3a、3bについても、同様に、実施可能である。

【0033】又図示はしないが、上記各実施の形態において、衣服の出し入れをより行い易くするために、衣服カバー1の正面中央へ縦（上下）に伸びるファスナーを設けて、このような位置での開閉を可能としてもよい。

【0034】更に、図1乃至図4へ示す実施の形態において、次のような構成を採用することも可能である。即ち、図1に示す衣服カバー1を、上下逆様にして、図8（A）へ示すように、ハンガに吊るした衣服以外のもの、例えば折り畳まれた衣類や、シーツ等の寝具などを収容する袋としても実施可能である。この場合、図8（B）へ示すように、延設部11を基体部10の内側に収容して使用することも可能である。図8（A）（B）に示すように、基体部10の、延設部11との境界部分10aに手提げ用の把手5、5を設けておけば、図8（B）の状態にしたときの持ち運びに便利である。又、境界部分10aに、ホック6…6を設けて、図8（B）の状態のときに、境界部分10aにて、カバーを密閉することを可能ととしてもよい。更に、境界部分10aの内部に縫持通部7を形成し、この縫持通部7内に紐8を持通して、境界部分10aを絞れるようにしても便利である。尚、図8（A）（B）の9は、延設部11の基体部10への縫い込み部を示している。この縫い込み部9にて縫い込まれることによって、延設部11は基体部10に固定されている。

【0035】上記のような構成を採ることによって、図8（B）へ示す状態にして、汚れた衣服を収容して持ち運び、汚れ物である衣服を取り出した後、図8（A）へ示すように延設部11を外部に引き出し、クリーニングや洗濯済みの衣服を収容するようにすれば、汚れ物が接触していた部位に、クリーニングや洗濯済みの衣服を接觸させることなく収容することができ、衛生的である。従って、このように実施することによって、衣服カバー1を、クリーニング店やランドリーへの汚れ物の持ち運びにも利用するのにも便利である。

【0036】尚、図8に示す実施の形態は、把手5、5や、ホック6…6、縫持通部7とその紐8以外の構成は、図1乃至図4に示す実施の形態と同様である。又、この図8に示す実施の形態の把持部材3についても、図5乃至図7に示すものを採用して実施することも可能である（図示しない）。

【0037】

【発明の効果】本願の第1の発明の実施によって、ハンガに吊るした衣服を収容する際に、ハンガのフックを嵩張らせることなく、しかも、持ち運びの際は、把持部材を掴めばよく、このようなフックを把手として掴む必要がないので、極めて持ち運びやすい。特に、把持部材を掴むことにて手に提げができるので、複数のハンガ（に吊るした衣服）を収容する場合でも、束ねたフックの厚みに拘らず、持ち易いものである。

【0038】本願の第2の発明の実施によって、上記の第1の発明の効果を得ると共に、特に、把持部材が帯状或いは紐状に形成されているので、掴み易く、手を傷つけることがない。又、このように帯状或いは紐状に形成されることによって、掴まないととも、把持部材は、嵩張らない。更に、ハンガに掛けた衣服を収容する際、係止部の位置を低くすることができ、フックを引っ掛ける作業が行い易い。

【0039】本願の第3の発明の実施によって、上記の第1の発明の効果を得ると共に、上記第2の発明と同様、把持部材が帯状或いは紐状に形成されているので、掴み易く、手を傷つけることがない。又、このように帯状或いは紐状に形成されることによって、掴まないととも、把持部材は、嵩張らない。特に、手に提げた際、安定しており、持ち運びがより一層行い易い。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明の一実施の形態を示す略全体正面図である。

【図2】（A）は図1の実施の形態においてハンガに掛けた衣服を収容した状態を示す略全体正面図であり、（B）は図1の実施の形態において複数のハンガに掛けた衣服を収容して手に提げた状態を示す一部切欠部拡大略正面図である。

【図3】（A）は図1の実施の形態の略全体左側面図であり、（B）はその折り畳んだ状態を示す略全体左側面図であり、（C）はその折り畳んだ状態を示す略全体背面図である。

【図4】図1の実施の形態について衣服を収容する状態を示す略全体正面図である。

【図5】（A）及び（B）は上記と異なる実施の形態の一部切欠部正面図であり、（C）及び（D）は又他の実施の形態の一部切欠部正面図である。

【図6】（A）は更に他の実施の形態を示す一部切欠部正面図であり、（B）は又他の実施の形態を示す一部切欠部正面図であり、（C）は更に又他の実施の形態を示す

す一部切欠部正面図である。

【図7】(A)乃至(C)は、更に他の実施の形態を示す説明図である。

【図8】(A)及び(B)は又他の実施の形態を示す全体正面図である。

【図9】(A)は、従来の衣服カバーの全体斜視図であり、(B)は東ねたハンガリーハンガーのフック部分を一部*

* 切欠部斜視図である。

【符号の説明】

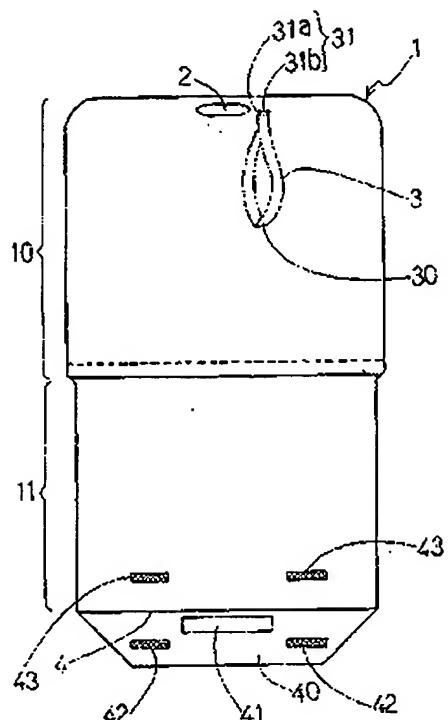
1 衣服カバー

2 縫通口

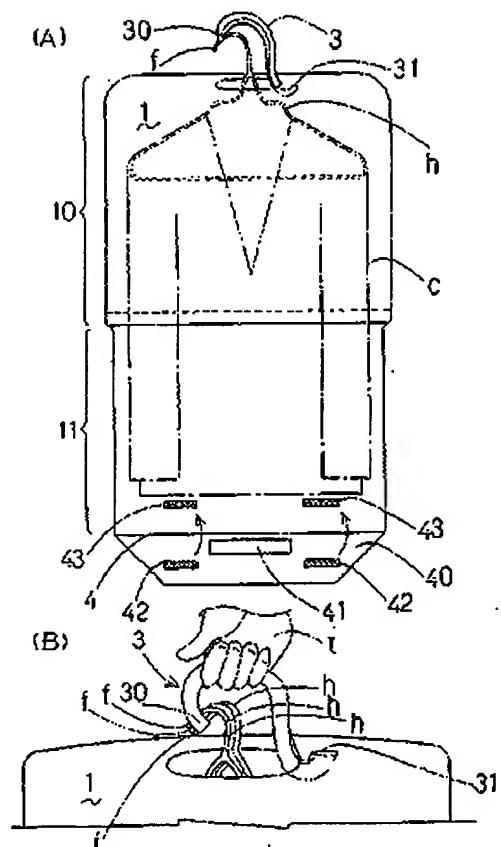
3 把持部材

30 係止部

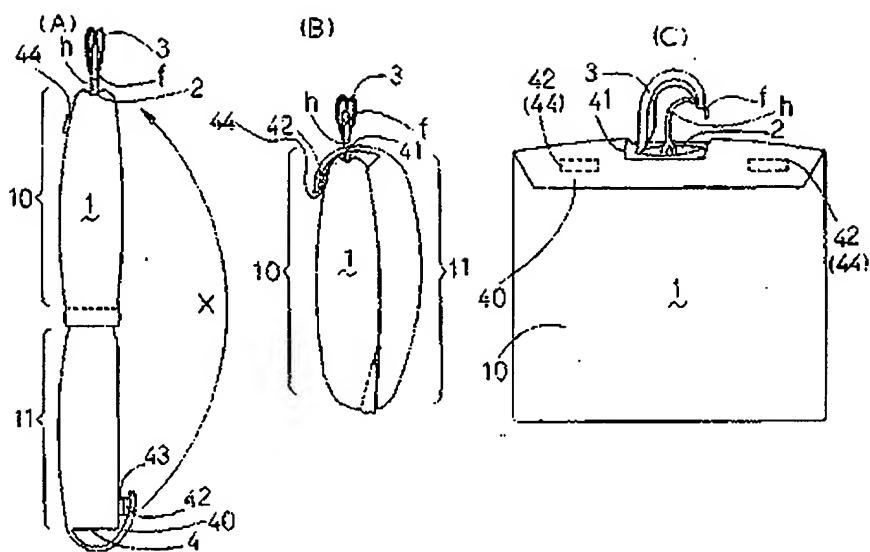
【図1】



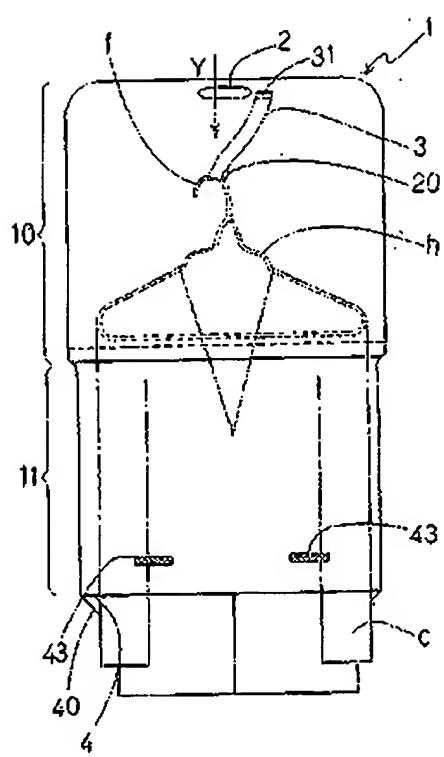
【図2】



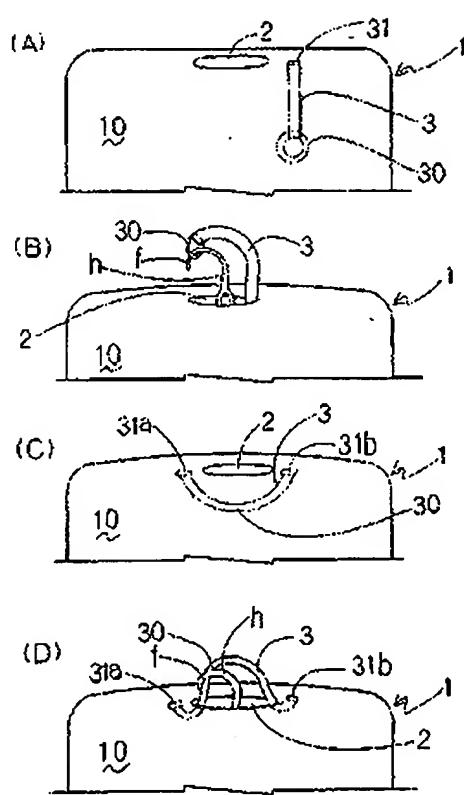
【図3】



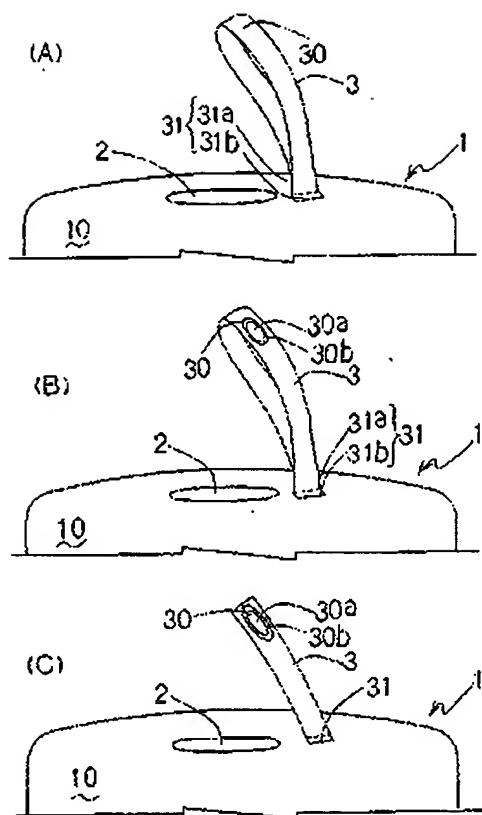
【図4】



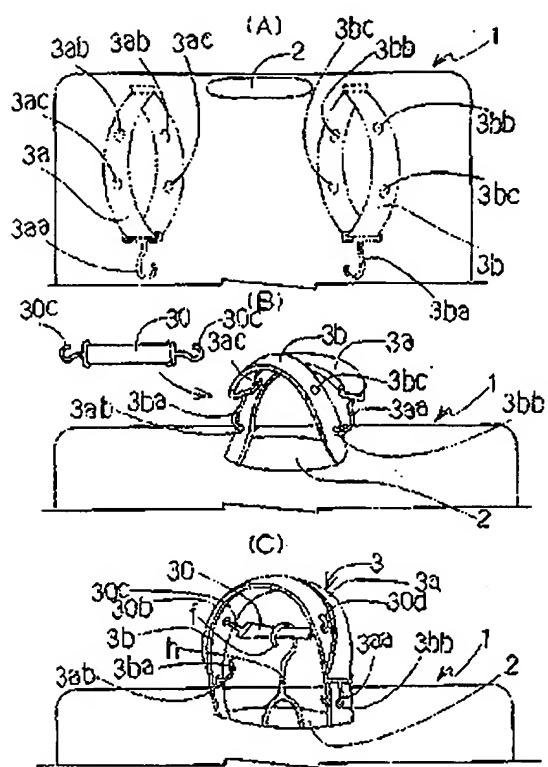
【図5】



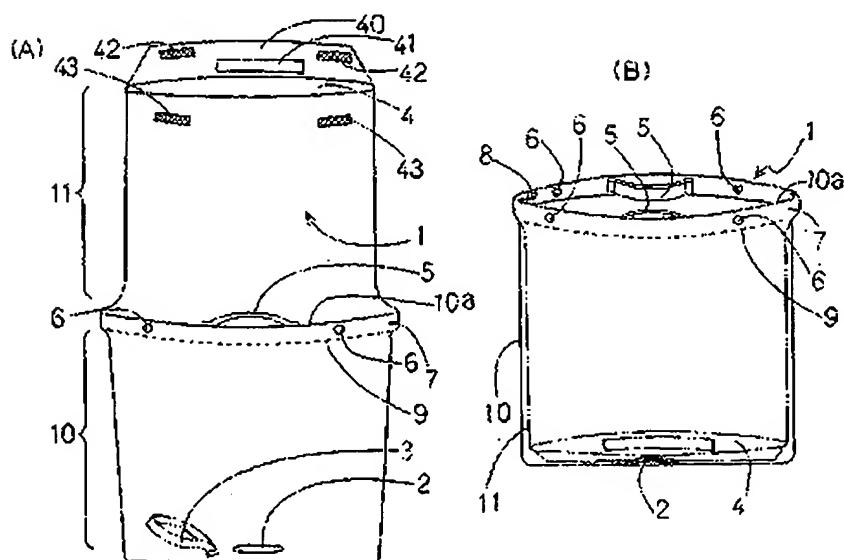
[図6]



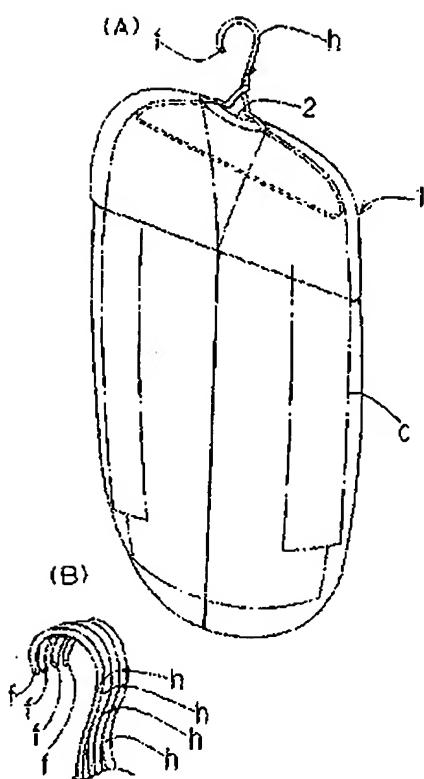
[図7]



[図8]



【図9】



This Page is inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT OR DRAWING
- BLURED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- GRAY SCALE DOCUMENTS
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- REPERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.
As rescanning documents *will not* correct images
problems checked, please do not report the
problems to the IFW Image Problem Mailbox